

## ラボ・センター紹介

# 科学技術システムラボ

(Science and Technology System Laboratory)

担当教員: 西村秀和教授、日比谷孟俊 SDM研究所顧問

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/hibiya>

科学技術システムラボは、「科学研究や技術開発をシステムデザインすること」を目的に立ち上げられました。これまでの我が国の科学研究には、まずは手を動かしてみようという発想があり、このため大学の研究室は週7日、24時間体制になっています。これは、理工系学生が試練に立ち向かう際の訓練としては必ずしも悪くはないアプローチですが、効率は決して良くありません。科学研究にせよ技術開発にせよ、フロントローディングで準備をすることが重要です。「仮説を検証するために必要十分な証拠は何なのか、どうしたら、これらに最短距離でアプローチできるか」を、研究を始める前に先回りして考察すれば研究の効率や生産性は上がります。そのためには、研究の実施にあたって、システムズエンジニアリング的な発想が求められます。

現在、当該ラボの具体的なテーマとして、山岳地域の放射線量率測定があります。福島県吾妻連峰は慶應義塾の山荘もある山域ですが、東北地方太平洋沖地震の影響により福島第一原子力発電所で発生した事故以来、風評被害的に登山者数が減っています。自然界には、地質に依存した固有の自然放射線が存在します。しかしながら、現状では自然放射線の存在が無視され、かつ、線種と不確かさに対する考察の欠如した空間放射線量率のデータが独り歩きをし、これが地元の人々や登山者の不安を煽っています。当該ラボでは、理工学部山岳部と協力して、線種を特定した山岳地域の空間放射線量率を測定し、自然放射線と原子力事故由来の放射線とを区別し、これを公表してゆく計画を進めています。



福島県吾妻連峰



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館  
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management